

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2015-11-01

No. 70



株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation
〒516-2102 三重県度会郡度会町大野木 3571 番地 2

本社・大野木事業所
<http://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 16-1-1 Ed. 4.0 (2015-09): 測定機器 規格	3
IEC: 直流 (DC) が主役に: “SEG4: 低圧直流 (LVDC) の適用、流通及び安全”の活動	7
IEC: 新規格リスト	9
ISO: 新規格リスト	11
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	12
<hr/>	
USA: FCC: KDB: 規則 2.1053 項のライセンス機器の試験にはどのような測定手順を?	13
USA: DOE: 電気自動車(EV)への車両充電 SAE J1772 コネクタ、又は CHAdeMO	14
USA: EPA: エネルギースター最高省エネ 2016 基準を設定	15
USA: EPA: フォルクスワーゲン社大気清浄化法違反	16
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	16
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	17
USA: IEEE: 新規格リスト	18
カナダ: CS-03 — 端末機器等及び補聴器両立性に対する適合仕様書 Issue 9 発行	18
<hr/>	
EU: 低電圧指令の 2006/95/EC から 2014/35/EU への移行に関するガイダンス文書	20
EU: 携帯電話用リピータに関する第 6 回 R&TTE 市場監視キャンペーン報告書	22
EU: 一般製品安全指令と防爆機器指令の整合規格リストが更新	22
EU: 機械指令関連 '使用の推奨' (RfU)シートが入手可能	23
EU: 玩具指令 2009/48/EC 管轄下の推奨及びプロトコルが入手可能	24
EU: CENELEC: 新規格リスト	25
EU: ETSI: 新規格リスト	26
ニュージーランド: 製品ラベリング: 単一の適合マーク—RCM に統合、そして R-NZ も 27	
<hr/>	
中国: CNCA: 完成機器の強制認証に認められている部品の自主認証をさらに推進	28
中国: CNCA: 現在有効な規正文書と廃止された規正文書の公布に関する公告	28
中国: CQC: 太陽光発電システム用分離スイッチおよび回路遮断器の認証サービス	28
中国: CQC: ポータブル電子製品用リチウムイオン電池等の安全認証規則	29
中国: CQC: コンピュータ製品に実施する新版エネルギー効率認証の技術規範 通知	29
中国: 新規格リスト	30
台湾: プロジェクタ等商品の検査規格および検査規定の改訂の事前公告	32
台湾: 「検査の対象となるエアコン商品の関連検査規定」の改訂通知	33
台湾: 瞬間加熱型封閉式電気温水器商品「異常動作」試験解釈令	33
台湾: 新規格リスト	33
韓国: 簡易無線局などその他の業務用無線設備の技術基準の一部改正 (案) 行政予告	35
韓国: 電磁波吸収率の測定基準に関する告示の一部改正案行政予告	35
韓国: 電気通信事業用無線設備の技術基準全部改正 (案) 行政予告	36
韓国: 電気用品安全管理運用要領改正 (案) 立案予告	37
韓国: 電気用品安全基準の改正告示: KC 60065 関連	38
<hr/>	
総務省: IEC: CISPR ストレージ会議 対処方針: 情報通信技術分科会配付資料	39
総務省: 平成 27 年度無線設備試買テストの中間結果報告 (10 月期)	42
総務省: IoT 時代に対応した携帯電話番号制度の在り方の全体像	43
経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈についての一部改正	44
<hr/>	
ちょっといっぴく: 小クイズコーナー ~ 製品の名称と住所の表示 (新低電圧指令) ...	12
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	19
社長の独り言	45



IEC: 規格解説: CISPR 16-1-1 Ed. 4.0 (2015-09): 測定機器 規格

CISPR 16-1-1 Ed. 4.0 無線妨害及びイミュニティの測定機器 測定機器 規格が、2015-09 付で発行された。

- CISPR 16-1-1: 2015 は、周波数領域 9 kHz - 18 GHz での無線妨害の測定のための機器の特性および性能を、規定する。その他、不連続妨害測定に用いる特殊機器に対する要求事項を規定している。本第 4 版は、2010 年発行の第 3 版、修正 1: 2010 及び修正 2: 2014 を、キャンセルし置き換える。本版は、技術的改定からなる。主な技術変更は、測定受信機に対する校正要求事項に関する規制的付属文書の追加である。
その他、- 「本文書との適合には、パテントの使用を含む場合がある」との主張があるという注意喚起文が追加された。- 用語及び定義項に、校正、検証等校正関連の用語の定義が追加された。

IEC: 直流 (DC) が主役に: “SEG4: 低圧直流 (LVDC) の適用、流通及び安全” の活動

- DC を使用し発電していることは、ほとんど気付くことなく、現在世界的に実現されている。現在我々は、それをシステムに入れることが必要であり、これら全てを一緒にするために、IEC が指導的役割を果たすところである。

USA: FCC: KDB: 規則 2.1053 項のライセンス機器の試験にはどのような測定手順を?

- 規則 2.1053 項のライセンス機器の試験にはどのような測定手順および試験サイトパラメータを使うべきか>>> ライセンスサービス送信機器の機器認証申請の内容に関する基本要件事項は、2.1033(c)項に記述されている。

USA: EPA: エネルギースター最高省エネ 2016 基準を設定

EU: 低電圧指令の 2006/95/EC から 2014/35/EU への移行に関するガイダンス文書

- 低電圧(LVD)指令 2006/95/EC は、20 April 2016 から、新しい指令 2014/35/EU により、置き換えられる。低電圧指令の 2006/95/EC から 2014/35/EU への移行に関するガイダンス文書が、よくある質問のリストを内容として、入手できる。

ニュージーランド: 製品ラベリング: 単一の適合マーク RCM に統合、そして R-NZ も

- ニュージーランド、オーストラリアとも、新規及び従来からの供給者すべては、2016 年 3 月 1 日までに単一の適合マーク RCM を使用しなければならない (ニュージーランドでは R-NZ マークもあり)。

総務省: IEC: CISPR ストレージ会議 対処方針: 情報通信技術分科会配付資料

- 2015 年の CISPR 会議は、9 月 21 日から 10 月 1 日までの 11 日間にわたり、イタリアのストレージで開催される。日本からは、総務省、国立研究開発法人情報通信研究機構、日本電信電話株式会社、各大学、各試験機関、各工業会等から 40 名が参加予定である。
- 総会及び各小委員会等の会議において審議等が行われるが、それらの会議における我が国の対応を以下本稿に記す。

社長の独り言

2015年10月25日
濱口 慶一

すっかり秋めいてきましたが皆様お変わりなくお過ごしですか？

伊勢の方に来られた方は、ほとんどの家に注連縄が一年中飾られているのに気づかれることと思います。これには諸説ある様ですが、伊勢市観光協会はホームページ（URL: <http://www.ise-kanko.jp/monosiri/index.html>）で以下のように紹介しているので引用させていただきます。

（以下引用）

「伊勢の町を歩くと、家々の門口に注連飾りが掲げているのが目につきます。中央に「蘇民将来子孫家門」あるいは「笑門」「千客萬来」などと墨書きした門符（木札）が付き、左右にシデヤウラジロなどを飾った太い注連縄です。正月の注連縄飾りは普通は松の内が過ぎればはずすのが一般的ですが、伊勢志摩では、一年間かけたままで過ごす風習があります。

それは、「その昔、この地を訪れたスサノオノミコトに、貧しいながらも慈悲深い蘇民将来が一夜の宿を貸した。ミコトは旅立つ時、今後は門符を門口にかけておけば、子孫代々疫病から免れると言いつた」という伝説があるからです。蘇民の子孫である証拠として門符を掲げ、無病息災を願うようになったそうです。つまり、家内安全の祈りを込めた「厄除け」の門符です。

ちなみに「笑門」とは、後に「蘇民将来子孫家門」を縮めた「将門」で、さらにこれが平将門に通じるのを嫌って「笑門」になったとされています。」

（以上引用終わり）

注連縄に付けられている木札の文言も気になるのですが、実は私は、注連縄の方向というのか、稲藁で作られている注連縄自体の根元側が飾られた注連縄に向かって右側が細く、左側は根元にするのか、太くなっており、右側が先端となるようにして飾られるのが本来の方向なのかと興味を持っています。伊勢の家では、向かって右側が太い根元にして左が先端になった注連縄が沢山飾られていて、インターネットで調べると関西地区はこの形が多いようです。しかし私は、向かって右側が先端となった注連縄を、かなり昔から使用しています。昨年この違いに気づき少し興味を持って購入先に聞いたところ、伊勢神宮が女性の神だからそうしているという回答でしたが、どうもじっくりいきません。伊勢神宮ではどうも出雲神とは反対に右を先端にしているように思いますし、地元の方々が左を太く、右を先端としているのは、どうも出雲の神に気を使ってそうしているのが習慣となったような気がしてきています。

コスモスの注指連オープンサイトをご存知ですか？注連縄と良く似た文字ですが、注連縄発祥の地ともいう方がいますので、益々興味の湧くところです。夏の終わりに稲刈りが完了すると稲藁を適切に乾燥させて注連縄製造に入る農家があり、主に8月から12月初期までに大きな売り上げを達成する農家もあるようです。一度、注連縄製造業の方に聞いたところでは、多い方では数億円を稼ぎ出す方も居られるようです。経営者はついついそういうところに目が行ってしまいますが、今年ももう早いもので、この社長の独り言が皆様に読んでいただく頃には、11月の初旬と思います。もう少しすると年末になり、新しい注連縄を買い求め、古い注連縄と交換にすることになります。皆様の家でも注連縄をお飾りするようでしたらちょっとこういう面にも興味を持って注連縄を購入頂くとよいと思います。今年は新しい文言の木札になるかもしれませんね。

注連縄を玄関先に飾るもの以外に広げると、縄の縫い方には多種多様なものがあるようです。さらに面白いことをご紹介できるかもしれませんので、来年のことを言うと鬼が笑うと言われますが、忘れなければ来年の今頃の社長の独り言に書きたいと思います。

私どもの松阪事務所のある街は豪商を輩出した地域で、三井家の生家のある街でもあります。こちらにお越しの際には、お時間が許すようであれば是非とも松阪商人の館や三井家の生家を見学下さい。三井家の方は滅多に見学する機会はありませんが、松阪商人の館は見学が可能です。江戸時代の通貨の千両箱は時代劇などでよく見るのですが、松坂商人には、万両箱があったようです。今回はこの辺で筆をおきます。

- ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション 業務推進部まで sales@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

- 本誌の内容案内、ご購入案内は、<http://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準検局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC& Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2015-11-01 (No. 70)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレーション 松阪事業所 <http://www.safetyweb.co.jp/>

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2015 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。